

2021年度 ブロック長意見交換会

1. 日 時 : 2021年8月21日(土) 13:00~15:00

2. 場 所 : 大阪市北区豊崎3-20-1 インターグループビル会議室 ZoomにてWeb会議

3. 出席者

(1) 本人出席者 23名

大橋健(代表理事)、水野勝教(専務理事)、今井俊二(理事・沖縄)、島谷太(理事・阪神)、中島晃芳(理事)、森重智年(理事)、松山森仁(理事)、政岡恵太郎(理事)、田中宏明(監事)、高橋忠(東北)、富永一利(関東)、太田佳伸(埼玉代理)、山田巧(群馬)、神賀悠輝(茨城代理)、川上誠(静岡)、山田吉孝(東海)、西田好光(関西)、吉本光希(京滋奈)、井関暁洋(中丹・南丹)、玉島琢巳(兵庫)、山野真一(広島)、樋川直人(四国)、是澤郁(九州)

(2) 欠席者 9名

野村泰朗(理事)、勝村航太(理事)、松本紗映(北海道)、瀬谷知之(福島・栃木)、吉楽雅典(北信越)、久留衆(岐阜代理)、出村公成(石川)、澤山博幸(岡山)、村川立美(島根)

(3) その他出席者

浅沼まり(事務局)、休場万喜(事務局)

4. テーマ

1. 2020年度活動報告

- ・ノード、ブロック大会参加状況
- ・ロボカップジュニア日本大会2021オンラインについて
- ・RoboCup2021WORLDWIDEについて

2. 2021年度活動計画

- ・茨城ブロックの設立について
- ・ノード、ブロック大会の計画(各ブロックより)
- ・2022年名古屋大会について
- ・RCAP2021Aichi大会について

3. RCJJ運営について

4. その他

5. 配布資料

- 資料1. RCJJ2021 ノード毎のエントリーチーム数
- 資料2. レスキュー 2021振り返りと課題
- 資料3. サッカー オンライン大会の評価・反省
- 資料4. 茨城ブロック新設の申請書

6. 意見交換会概要

(1)大橋代表理事より、2020年の活動状況について、各ブロックからの報告を求めた。

●東北ブロック長・高橋氏より、会場は予約できたものの周囲から実際に開催するののかとの意見もあり、ノード大会は実施したが、ブロック大会は実施せず、書類選考で推薦チームを決めた。

●関東ブロック長・富永氏より、OnStageのみオンライン、サッカーとレスキューは実機でノード、ブロック大会共に実施。会場に入れるチーム数を制限する等の感染対策を行った。

●埼玉ブロック長代理・太田氏より、ノード大会は実施せず、ブロック大会のみ実機で実施。競技する時間にものみ入場できるようにし、会場に入れるチーム数を制限して実施。チームからは作成した実機を使える機会があつて良かったとの声があつた。

●群馬ブロック長・山田氏より、WL、NL共に実機で実施できたが、高校の部活動が減ったためか参加チーム数が減った。

●東海ブロック長・山田氏より、ブロック大会はレスキュー、サッカーは実機で別会場、OnStageはオンラインで実施。サッカーは無観客、メンターなしで入場人数を制限し、レスキューはチームメンバーのみの交代制で実施し密を避けた。

- 関西ブロック長・西田氏より、一部のノード大会は実施できたがブロック大会は中止。書類とビデオ審査で推薦チームを選出した。
- 京滋奈ブロック長・吉本氏より、ノード大会はほとんど開催することができず、ブロック大会は参加人数が減ったため、広い会場で時間別にプレーするチームのみが入場できるように工夫した。
- 中丹・南丹ブロック長・井関氏より、学校は対外試合禁止のため大会を開催することができなかった。全国大会に出場したいチームを募り、結果1チームが4位をとることができた。今後は新規参加者の確保が課題。
- 阪神ブロック長・島谷氏より、学校内で順位付けをしてもらい、協議会で推薦を行った。
- 兵庫ブロック長・玉島氏より、サッカーのみ広い体育館で実施したので、密にはならなかった。レスキューとOnStageは、各チームの活動拠点に出向き採点を行った。
- 九州ブロック長・是澤氏より、例年1日でするところを2日に分けてブロック大会を実施。学校から出場を辞退するチームが出たので参加チームは減った。チェックカードを事前に記入してもらい、コロナ対策をした。実機での体験会が実施できなかったため、新規の参加チームが少なかった。資料1では、NLが増加しているが、どのように参加数を増やしたのでしょうか。
- 沖縄ブロック長・今井氏より、参加チームが少なかったため全チーム集めてブロック大会を実施した。
- 広島ブロック・森重氏より、サッカーは三密回避のため、対戦方式ではなくタスクを事前に設定し課題をクリアする方法で選抜を実施した。
- 四国ブロック・政岡氏より、県外から参加するチームもいるので健康チェックシートの提出、人数制限をするなどの対策を行った。チーム数が少ないため、例年どおり開催することができた。
- 静岡ブロック長・川上氏より、コロナ禍のためノードでの活動はできず、前年度のチームに声をかけて大会に推薦した。沼津ノードでは今年7月には体験会、8月にスキルアップ講習会を実施したが、コロナの感染拡大を受け、9月以降の活動は未定。
- 九州ブロックは是澤氏の質問に対して、中島理事より、サッカーNLの参加チーム数の増加について、ブロック大会の集計が無いので確かではない、ジャパンオープンが中止になった2020年と比較した数字なので、単純に参加チームが増えたのかは分からない。既存のチームを分割して参加したチームもあるのではないかと。

(2)各競技担当理事より、オンライン大会について、報告がなされた。

- レスキュー担当・森重理事より、資料2に基づき、2021年の振り返りと課題について、報告がなされた。技術委員の協力のもと、ルーブリック評価を活用して行い、選手、メンターに対し育成ガイドラインを提示することができた。また、プレゼン、インタビューに時間が取れたのもよかった点である。課題は、Mazeの参加チーム数が低迷しており、上位リーグへの移行が進まないことである。世界大会では、MazeとLineでシミュレーションが実施されているので、日本でも今後の対応が必要になると思われる。コロナ禍で実機でのプレーが難しい状況なので、シミュレーションを活用して上位リーグへの移行を進めたい。
- サッカー担当・松山理事より、資料3に基づき、オンライン大会の評価と反省点について、報告がなされた。良かった点は、インタビューを通じて選手との交流のレベルが従来の大会よりも高く、チーム毎に評価することができ、スタッフから選手へのフィードバックは好評だったこと。反省点は、準備期間が短かったため、直前になって情報を出すなどの問題があり、チームに負担をかけたこと。また、運営としては個人の施設、機材に頼るところが大きかったため、継続的に行うには問題がある。スタッフ集めが想像以上に難しく、十分な人数が集まらず、スタッフに大きな負担をかけてしまった。
- 是澤氏より、以前はサッカーでもインタビューを実施していたが、チーム数を増やして対戦を優先したのではないのか。なので、オンラインのメリットとは言えないのではないかと思う。また、オンライン大会開催のアナウンスが直前であったため、本業との調整がつかず、ボランティアとして参加することが難しかった。オンサイト、オフサイトの2本立てで早くから準備してはどうかとの意見がなされた。
- 森重理事より、2本立てで進めるのは難しいと思うので、来年のジャパンオープンは早めにオンライン開催かオフライン開催か決めるようにしたい。
- 大橋代表理事より、サッカーは実機で試合をすることが醍醐味だが、今回はオンライン開催なので、インタビューも十分に出来たのではとの意見がなされた。また、審査員からのフィードバックも細かく出来た。
- 中島理事より、関東ブロックはOnStageの審査をノードとブロック大会共にオンラインで実施した実績があったので、その運営方法を使って本大会を同じスタッフで実施した。そのため、問題なく行えた。ただ、ステージ（スペース）の確保や密にならないようにするため、チームの負担が大き

かったのではないかと。

●大橋代表理事より、名古屋市と現地開催をギリギリまで検討したが中止という結果になった。2020年和歌山大会に引き続き2年連続中止は避けたいので、RCJJ単独でオンライン開催とした。各ブロックにご協力頂き推薦頂けたので、オンライン大会が開催できた。また、交流会でOB、OGの話聞くことができ、現地開催でも導入できるのであれば検討したい。ワクチン接種で状況が落ち着けば3年ぶりのオンサイトを期待しているが、オンラインになる場合には決定を早めをしたい。

●島谷理事より、日本大会2021オンラインの収支報告が行われた。本大会は単独での開催となったため、最終的な決算報告は総会で行うとの説明がなされた。

●大橋代表理事より、初のオンライン開催ということもあり、未知の部分もあったが、技術委員協力の基、Zoomのチャンネルを多数活用して開催することができた。収益はRCJJの運営費の一部として来年の活動に有意義に利用していきたい。

(3)世界大会に参加した理事より、報告がなされた。

●森重理事より、LineとMazeでは日本大会と同様にループリック評価で行われ、デモンストレーションとしてシミュレーションも行われた。また、日本から技術ボランティア4名が参加し、2週間かけて評価を進めたとの報告がなされた。

●政岡理事より、サッカーはギャザータウンという、ゲームのようなディスプレイの中に仮想の会場を作る形で実施した。審査では、運営側に質問を確認する必要があり、言語の壁がある日本チームには難しかったのではないかと。

●島谷理事より、CoSpaceは当日課題を配布され、予選と決勝が行われた。またその中で競技者以外の第三者がプログラミングしていないかの監視も行なわれていたとの報告がなされた。

●大橋代表理事より、運営は各リーグに任されていたので、公式の結果発表をしていないリーグもある。成績を確認し、HPで発表したい。

(4)大橋代表理事より、資料4に基づき、茨城ブロック新設の申請を受け、7月23日にZoomにてヒアリングを実施し、本日午前の理事会にて承認されたことが、報告された。

●茨城ブロック長代理・神賀氏より、関東ブロックの茨城ノードとして活動してきたが、県内での活動者が増加しているため、ブロックを立ち上げて欲しいとの声が多数ありました。今後、茨城ブロックでの参加者の裾野を広げ、RCJJの発展に貢献したいと思っております。

(5)水野専務理事より、2022年ジャパンオープン名古屋について、説明がなされた。

1月後半から2月前半にはエントリーを開始したいと思っているので、ブロックからの推薦は1月末から2月初旬までをお願いしたい。ブロック大会が実施できない場合は、2021年同様に推薦をして頂きたい。8月初旬に開催委員会が開かれ、RCJJ理事は全員実行委員として競技を進めていく。また、参加チーム数も和歌山大会と同様に検討し、感染対策も十分に実施できるとの報告がなされた。

●是澤氏より、会場は広いということですが、同一フロアで行うのかとの質問がなされた。

●大橋代表理事より、ポートメッセ名古屋のワンフロアで実施予定との回答がなされた。水野専務理事より、和歌山会場の4倍の広さがあり、換気もしっかり行い、新たな対策も含めて検討したいとの回答がなされた。

●中島理事より、ノード大会のエントリーが確定した時点で、ノード参加チーム数を知らせて欲しいとブロック長に依頼があった。

(6)水野専務理事より、RCAP2021愛知大会について、報告がなされた。現時点では、予定どおり1月25日～29日にSkyExpoで開催予定。日本大会の結果を基に、各競技担当者から推薦チームを決定して頂き、プレレジストレーションは終了している。現地で実機参加するのは日本チームのみで、海外チームはオンラインでの参加になる。競技運営ボランティアの募集も始まるので、ご協力頂きたい。

(7)メジャーでは各リーグの入門書を作成する予定があり、ジュニアでも入門書を作成してはどうかとの話がある。正式に進めるようであれば、またご協力を頂きたい。

●水野専務理事より、世界大会の国際ルールは、原則2年に1度改訂することが定められた。また、次年度の世界大会については、2022年バンコク、2023年ボルドーが予定されているとの報告がなされた。各リーグへの参加チーム数の割り当てや、エントリーチーム数に大きな変更はないとの報告がなされた。

●松山理事より、サッカー技術委員会で承認がなされた2022年以降のルール変更について以下のとおり説明がなされた。

・RCJJの公式HPのサッカーブログに掲載されているとおり、WLサッカーオープンでのロボットのサイズ、重量規程が変更された。

・RCJJジャパンオープン2023より、以下の点を変更する旨説明がなされた。

(1)NLの参加資格変更

- ・年齢制限を設置。ブロック大会開催時、中学3年生までとする。
- ・ジャパンオープンNL参加後はWLに移行。複数回参加不可。

(2)NLコート変更

- ・WLコートに統一。今後ブロックでの運用を経てルール詳細に関しては検討する。

上記の変更はブロックへの影響が大きいため、NLの2023ルール変更は2021年度中に告知することとする。年齢制限の設置については、現在NLの参加数は増加しているが、NLからWLへの移行には至っていないため、低年齢の参加者にもWLにチャレンジしてもらいたいとの説明がなされた。また、レスキュー、OnStageでもNLの参加資格変更を統一するかどうか検討するとの説明がなされた。ルールについて、NLのコートは白線があっても対応しなくていいこと、また2022年大会でテスト競技を行い詳細は決めていくとの説明がなされた。

●群馬ブロック山田氏より、ロボットの高さに変更はあるかとの質問に対し、松山理事は、世界大会のルールに基づき、高さ、幅、共に18cm以内との回答がなされた。